

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自分を見つけ、自ら学ぶ喜びを知り、多様性を認め、志に向かう力を持って巣立つ生徒を、総合学科の特色を活かして育成する学校。
生徒： 主体的に学校づくりに参加し、自ら考え多くを体験し、自分を見つけ、志を実現すべく学ぶ、卒業後の大きな”伸びしろ”を有する生徒。
授業： 社会の要請と生徒の進路希望・興味関心に応え、生徒の志を実現するために必要な学力を保障する授業。
教職員： ビジョンを共有し、チームとして協同し、成果を分かち合い、社会との関わりを大切に、自主性を重んじ生徒の成長を支え続ける教職員。

2 中期的目標

<p>1. 高い志を持って進路を切り開いて行く力の育成</p> <p>(1) 自らの進路を考える力の育成：1年『自己発見』、2年『自己探求』、3年『課題研究』を軸として『今宮志学』プログラムの体系化 ※卒業時の学校教育自己診断における「1年、2年、3年での今宮志学」への肯定的回答を全て80%以上とする。</p> <p>(2) 『考える力』、『まとめる力』、『伝える力』の育成： 生徒が発表する機会・場の提供と生徒相互の取り組みへの支援・育成 ※今高生の主張、英語スピーチコンテスト、生徒自治活動、クラブ活動、サマーセミナー、野外スクーリングの実施</p> <p>(3) 国際感覚と国際交流力の育成： 海外交流と生きた英語に接する場の提供とそれぞれのレベルでの英語表現力の向上 ※ 英語暗誦大会、海外語学研修（オーストラリア・米国）、海外留学生・海外学校訪問受入れ、特色ある英語選択科目（『映画で英語』等）の提供 ※ 英検等外国語認定試験にトライする風土の育成。</p> <p>2. 自己実現のための学力保障と進路保障</p> <p>(1) 総合学科の特性を活かしたカリキュラム編成</p> <p>ア. 大学進学を中心課題とし、社会と生徒・保護者の多様なニーズに応え、生徒の将来に資するカリキュラム編成 ※卒業時の学校教育自己診断における次の2つの項目における肯定的回答を共に90%以上とする。</p> <p>①「選択科目の内容は、期待通りであった。」 ②「選択した科目で、自分の進路選択につながるものが十分あった。」</p> <p>(2) 授業の充実</p> <p>ア. ICT活用、授業アンケート、研究授業、授業評価による教科チーム毎の授業力の向上と今高にふさわしい教育力向上システムの確立。 ※研究授業実施回数 年間国数英理社2回以上、他教科1回以上（計15回以上）</p> <p>(3) 進路保障</p> <p>ア. 自らが学びへの高い志と意欲をもって学習に取り組む生徒の育成 ※ 卒業時の学校教育自己診断における生徒の「家庭学習（予習・復習）」項目の肯定的評価をH28年度70%に高める。（H25年度45%）</p> <p>イ. 国公立及び有名私大（関関同立産近甲龍・有名女子大）合格レベルの学力育成を支援する情報提供と学習指導の充実 ※ 国公立と有名私大（関関同立産近甲龍・有名女子大）への進学者合計が、四年制大学進学者の70%以上を占める。 ※ センター試験において平均点以上を獲得する生徒を増やす学習指導。 ※ 英検準2級以上の資格取得者が卒業生の70%以上を占める。</p> <p>3. 個性を輝かす生徒の育成</p> <p>(1) 生徒と向き合う時間の確保のためのICT活用推進 ※ 生徒情報の共有化と校務の効率化</p> <p>(2) 生徒相談体制の充実 ※ 卒業時の学校教育自己診断における保護者の「子どもの心身の健康についての相談」項目の肯定的評価をH28年度80%に高める。（H25年度72%）</p> <p>(3) 自主性を大切にしながら、生徒に規律と習慣を身につける生徒指導 ※ 遅刻者数の一層の低減（対H24年度比50%減）</p> <p>4. 社会に開かれた学校づくりの推進</p> <p>(1) 学校情報の発信（ホームページの一層の充実、学校説明会、中学校訪問） ※ ホームページ平均1日アクセス数を、平常時500回/日、行事時期1,000回/日に増加させる。</p> <p>(2) 地域貢献（教養講座の充実と地域行事への参加） ※ 教養講座の定期的開催</p> <p>(3) PTA、同窓会、後援会の皆様との連携の強化 ※ 1・2年生保護者アンケートにおける「学校ではPTA活動は活発であったか」項目の肯定的評価を、H28年度80%に高める（H25年度63%）</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校への満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしていた。』への3年保護者の肯定的回答 100%。『今宮総合学科で学んで良かった。』への肯定的回答 3年生徒 94%、3年保護者 99%であり、満足度は良好である。 <p>【生徒指導面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 学期末時点で、遅刻者総数前年比 15%減(2655→2271)、長期欠席者数 25%減少(8→6名)といずれも改善良好。 生徒の学校行事への積極的な参加についての肯定的回答 82%→89%。部活動への積極的参加への肯定的回答 72%→77%と良好に改善した。 <p>【学習指導面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『ICT 機器が、授業などで活用されている。』の肯定的回答が、教員 84%→88%、1 年生徒 84%→91%、2 年生徒 80%→82%へといずれも向上。昨年度末、最後に普通教室にプロジェクタを導入した3年生徒の肯定的回答は 60%→82%と大幅に向上。導入効果が出た。 『毎日学習した。』への肯定的回答が1～2年生で 22%→27%と改善。『授業中大きな声で発言している。』への肯定的回答も1～2年生で 40%→57%といずれも改善した。進路保障には生活習慣、学習習慣の改善が引き続き必要である。 <p>【学校運営面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の相互理解への肯定的回答 80%→58%、分掌・学年の有機的連携への肯定的評価が 50%→41%と低下。体制面含め改善策を実施する。 	<p>第1回(H27年6月13日) 『今宮らしさについて』</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路の多様化で「どこの大学に行った」ではなく、様々な分野で人材を輩出している今宮の文化、そういう精神をこれからも大事にしてほしい。 今宮らしさ、今宮高校のイメージは「リベラル、いい意味での自由さ」。そういうところが人材を輩出した背景にある。 今宮高校のやろうとしている「自分を探す、何のために学ぶのか」ということに繋がることであり、やんちゃな生徒かもしれないが、全体に刺激を与えるかもしれない。 <p>第2回(H27年11月6日) 『今宮ブランドについて』</p> <ul style="list-style-type: none"> 今宮ブランドの高揚として、今宮高校の歴史を伝える取り組みをしてはどうか。在校生が今宮高校の歴史を知ること、より今宮ブランドの意識が高まるのではないかと。 今宮に入る生徒はある程度、小中学校の基礎学力がついている生徒なので、今宮の教育力で生徒達の眠った才能を起こしてほしい。 今宮のブランドを伝える活動で、「今宮高校のOBを調べる」など、生徒参加型の企画があってもよいのではないかと。 <p>第3回(H28年2月16日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路実現にあたり今宮高校でよかった点。（委員のお子さんを見ての実体験より） ①無理だと言わずに見守った教員。②引退後、絶対合格すると気持ちで取り組めた事。 生徒の動機付けについて。 ①教員が教えすぎないこと。②教員は興味を持つネタを示し、生徒が考えるのが学び。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進路を切り開いて行く力の育成 高い志を持って	今宮ブランドの意識共有と高揚	(1) 今宮ブランド意識の高揚 ア. 校歌に親しみを感じ歌う機会の増加 イ. 『自治会自主規制』意識の高揚と遵守 ウ. 今宮高校の伝統行事の熟成(今高祭、今高生の主張、スピーチコンテストの開催) (2) 学校としての統一感の醸成 ア. 3年間の育成計画の充実、共有と公開。 イ. 学習スタンダードの整備 ウ. 今宮学校生活モデルの共有と啓蒙	(1) 今宮ブランド意識高揚 ア. 校歌に親しむ機会 5回以上 イ. 生徒委員会の開催 10回以上 ウ. 伝統行事開催3回以上 (2) 学校としての統一感 ア. 生徒・保護者等への説明の実施(3回以上)。 イ. 国数英3教科の整備 ウ. 生徒・保護者等への説明の実施(3回以上)。	(1) 今宮ブランド意識高揚 ア. 始業式、体育大会等で5回校歌を斉唱。 生徒自治会主体で校歌DVD制作開始(◎) イ. 生徒委員会の開催20回(◎) ウ. 今高祭、今高生の主張、スピーチコンテスト、課題研究発表会を開催。のべ4回(○) (2) 学校としての統一感 ア. 保護者説明会、学校説明会、PTA役員会等で説明を8回実施。(◎) イ. 国語完、数学英語未完(△) ウ. 学年集会、PTA実行委員会、保護者説明会、学校説明会等で8回説明。(◎)
進路保障 自己実現のための	国公立及び有名私大(関関同立産近甲龍・有名女子大)合格レベルの学力育成。	(1) 進路指導システムの充実 ア. 3年模擬試験等教科分析会の開催 イ. 進路指導マニュアルの整備 (2) センター試験への取り組みの進化 ア. センター試験受験者数の維持 イ. センター試験教科別平均点以上獲得人数の増加 (3) 国公立・有名私大進学比率の増加	(1) 進路指導システム ア. 3回/年以上の開催 イ. 担任団への提供 (2) センター試験結果 ア. 前年並の受験者数(H26年度140名) イ. 教科別獲得者数10%増(H26年度延べ330名) (3) 対四年制大学進学者比60%	(1) 進路指導システム ア. 5回/年開催済み。(○) イ. データ、資料収集まで。(△) (2) センター試験結果 ア. センター試験受験者数137名(○) イ. 教科別獲得者数H27年度344名4%増(△) (3) 国公立・有名私大進学者の対四年制大学進学者比64%(◎)
自己実現のための学力保障	今宮学習指導システムの立ち上げ	(1) 組織・制度の立ち上げ ア. 学習指導部の立ち上げ イ. 45分*7限34単位及び土曜日授業の実施 (2) 授業の充実 ア. ICT機器の充実とICT使用授業の増加 イ. 生徒がしっかり声が出ている授業の増加 (3) 英語力の強化 ア. 英検2年生原則全員受験の推進。 イ. 新設する総合的な学習の時間の効果的な運用 (4) 生徒の学習習慣の定着 ア. 学力生活実態調査の実施 イ. 自学イベントの実施(学習会サマーセミナーとウィンターセミナーの開催) ウ. 学習記録カードシステムの実施	(1) 組織・制度 ア. スタディサポート分析会の2回実施(H26:0回) イ. 土曜日授業の実施(年8回程度) (2) 授業の充実 ア. 『ICT機器が授業等で活用されている』の3年生の肯定的回答70%以上(H26年度60%)。 イ. 学校教育自己診断『授業中大きな声で発言している。』への肯定的回答50%以上(H26年40%) (3) 英語力の強化 ア. 200名以上の受験 イ. 英検過去問挑戦の実施(3回分以上)。 (4) 学習習慣の定着 ア. 1～2年生:年2回実施。 イ. サマーセミナー、ウィンターセミナーを、各1回開催。 ウ. 学校教育自己診断『毎日学習した』への肯定的回答50%以上(H26年22%)。	(1) 組織・制度 ア. スタディサポート分析会1～2年各2回の計4回実施(H26:0回)(○) イ. 土曜日授業計11回実施(◎) (2) 授業の充実 ア. 『ICT機器が授業等で活用されている』の3年生の肯定的回答82%(H26年度60%)。(◎) イ. 学校教育自己診断『授業中大きな声で発言している。』への肯定的回答47%(H26年度40%)(△) (3) 英語力の強化 ア. 2年生221名が英検を受験した。(◎) イ. 英検過去問挑戦の3回分実施(○) (4) 学習習慣の定着 ア. 1～2年生:各学年各2回実施済み。(○) イ. サマーセミナー、ウィンターセミナーを、各1回開催済み。(○) ウ. 学校教育自己診断『毎日学習した』への肯定的回答27%(H26年度22%)。(△)
個性を輝かす生徒の育成	生徒の学校生活の充実と生活習慣の改善支援	(1) より風通しのよい職場の実現 ア. 分掌4G制の定着と経営会議の設置による教員意見集約と周知機能の充実 イ. 分掌長・学年主任の各代理の設置 ウ. 分掌・学年会への管理職の出席 エ. ICTの活用(分掌連絡メール、電子掲示板) (2) 生徒の生活習慣の改善 ア. 『時間を守る意識の高揚』(挨拶キャンペーン、携帯マナー等) イ. 整理整頓の改善 ウ. 遅刻数の改善 (3) 教育相談委員会を中心とした相談活動の充実と情報の共有化 ア. 教育相談室会議の定期開催 イ. 個別の支援計画、個別の指導計画の作成と活用	(1) 学校教育自己診断『分掌・学年の有機的連携』の肯定的評価70%以上。(H26年度50%) ア. 経営会議20回以上開催 イ. 10の分掌長・学年主任の代理設置 ウ. 管理職出席20回以上 (2) 生徒の生活習慣 ア. 風紀委員中心による企画の実施2案件以上。 イ. 下足箱の整頓率95%以上(H26年:90%)。 ウ. 遅刻数500件の減少 (3) 相談活動 ア. 教育相談室会議の定期開催(月1回以上) イ. 学校教育自己診断『子どもの心身の相談』項目の肯定的評価70%以上。(H26年度60%)	(1) 学校教育自己診断『分掌・学年の有機的連携』の肯定的評価41%。(△)(H26年度50%) ア. 経営会議25回開催(◎) イ. 10の分掌長・学年主任の代理設置(○) ウ. 管理職出席25回(◎) (2) 生徒の生活習慣 ア. 校歌に集中、企画進行を中止した。(△) イ. 下足箱の整頓率95%以上(H26年:90%)。(○) ウ. 遅刻数201件の減少(△) (3) 相談活動 ア. 教育相談室会議を定期的に月1回以上計20回開催(◎) イ. 学校教育自己診断『子どもの心身の相談』項目の肯定的評価66%。(H26年度60%)(△)
学校づくりに開かれた	広報活動の再構築とPTA・同窓会・後援会の皆様との連携推進の継続	(1) 中学生参加行事の充実 ア. 中学生・保護者参加行事の充実 イ. 今宮スポーツフェスタの開催。 (2) 中学校・塾への計画的訪問の実施 (3) 教養講座の内容見直しと定期開催 (4) 創立110周年記念事業の準備	(1) 中学生参加行事 ア. オープンスクール等への年間参加者1,500人以上 イ. 2回開催(H26年:1回) (2) 中学・塾訪問延べ100回以上(H26年度51回) (3) 中学生用講座の開講。10講座以上の開講。 (4) 式典内容の確定。	(1) 中学生参加行事 ア. オープンスクール等への年間参加者1,895人(◎) イ. 9/23, 11/23の2回開催(H26年:1回)(○) (2) 中学・塾訪問延べ160回訪問(H26年度51回)(◎) (3) 中学生用講座の開講。中学生向けを含め19講座を開講。(◎) (4) 式典内容の確定。(○)